

## 29 不整脈デバイス（ペースメーカー）チーム医療の現状と課題

### 遠隔モニタリングシステムを導入して

○江藤 康夫<sup>1)</sup>、上杉 蘭<sup>1)</sup>、赤峰 正晃<sup>1)</sup>、中島 みゆき<sup>1)</sup>、米増 博俊<sup>1)</sup>

小田 佑樹<sup>2)</sup>、光武 徹<sup>2)</sup>、谷口 弥生<sup>3)</sup>、岩尾 哲<sup>3)</sup>

1) 大分赤十字病院 検査部 2) 同 臨床工学 3) 同 循環器科

#### 【はじめに】

ペースメーカーの治療は、主に除脈性不整脈に用いられる。デバイス（ペースメーカー）植え込み後は定期的に来院し、患者やデバイス（ペースメーカー）の状態、トラブルの有無等をチェックし正常に動作しているか検査することが必要である。

当院では、医師・臨床工学技士・臨床検査技師・（看護師）による職種混合の、いわゆるデバイス（ペースメーカー）チームを発足し、デバイス患者の診療に関わっている。

近年、デバイス（ペースメーカー）の状態を遠隔モニタリングシステムと呼ばれるインターネットを用いた送信システムを家庭に設置することにより、来院前にあらかじめ情報を把握できるようにした。それにより来院時のデバイスの follow up に関する負担を、患者・医療者双方において軽減できる。またデバイス情報をモニタリングしていることにより、不整脈イベントや機器異常などの情報を早期に捉えることができます。

そこで今回、当院の不整脈デバイス（ペースメーカー）チーム医療の現状と今後の課題について報告する。

#### 【現状】

当院では現在（平成 27 年 4 月末日）、約 170 名の患者のデバイス（ペースメーカー）の管理を行っています、また一昨年より St. Jude Medical 社の Patient Care Network (PCN) を導入し、26 名が遠隔モニタリン

グシステムを利用しています。デバイス（ペースメーカー）外来は、毎月 2 回（第三月曜日と水曜日）、14 時から診療しています。職種の役割分担ですが、2 ないし 3 名の循環器医師が診療に携わり、2 名の臨床工学士は、デバイス（ペースメーカー）のチェック、遠隔モニタリングにおいては、システム管理者となり、システムのスケジューリング及び事前データチェック。看護師は、当院ではデバイス植え込み周術期のみ介入し、外来診療には関与していない。担当検査技師は 4 名で心電図検査は勿論、他にデバイス診療全体の管理・運用やデバイスデータの管理・保存、また医師の診療の補助（血圧測定や問診票作成等）を行っています。

#### 【問題点及び課題】

この分野は、今後の遠隔医療のニーズとも相まって広まって行くことが予想されるが、看護師をはじめチーム医療を支える専門スタッフの不足が深刻な問題です、また遠隔モニタリングシステム運用において、デバイスイベント時のアラート通知の設定と対応が課題になってくると思われます。

#### 【最後に】

定期的にカンファレンス等を開催し、チーム全体で問題点を解決し、また専門性を高め、

今後も、限られたスタッフで不整脈デバイス（ペースメーカー）チーム医療の役割を果たしたい。

連絡先：097-532-6181（内線 172）